

とぎつちよう うちどく すいしん  
時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん なつごう  
中学年向け 2024年 夏号



## うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「パッチワーク」  
マット・デ・ラ・ペーニャ/文  
コリーナ・ルーケン/絵 さくま ゆみこ/訳  
(岩波書店)

今ピンクが好きな子が、いつかは茶色が好きになるかもしれない。今ダンスが得意な子が、将来プログラマーになることだってあるかも！美しいパッチワークのようにいろいろな色を持つ子どもたちの未来は無限大だ。子育て中の大人にも読んでもらいたい絵本です。



「つるばら村のパン屋さん」  
茂市 久美子/作 中村 悦子/絵 (講談社)

みなさん、パンは好きですか？  
くるみさんは、つるばら村で宅配のパン屋さんをしています。タンポポのはちみつやツルバラのジャムが入ったパン、とてもおいしそう！  
「わたしのパンを村じゅうの人たちに食べてもらえたらいいな」そう思っているくるみさんのところに、あるお客さんからパンの注文がありました。  
やさしい挿絵も魅力的です。



「火のトンネル」  
岡本 央/写真 (大月書店)

毎年8月9日がくると、私たちは原爆のことを深く考えます。一方、原爆を体験した人は年々少なくなっています。原爆を伝えていくために私たちができることは？そこで、銭座小学校（長崎市）の子どもたちは、原爆が落ちたあとの様子をみんなで絵に描くことにしました。その絵が「火のトンネル」です。今も地球のどこかで戦争をしている人たちに見てほしい絵です。



「ぷるぷるとろける300円で  
ひんやりデザート」  
宮沢 うらら/著 (汐文社)

みなさんが大好きなデザート。お家で作ってみたいと思いませんか？  
この本は、おいしいデザートがなんと300円で作れるレシピがたくさんついています。暑い夏の日、ひんやりデザートを作って、家族や友達と一緒に食べちゃいましょう。プレゼントにしても喜ばれるかも！



「こいぬとこねこのおかしな話」  
ヨゼフ・チャペック/作 木村 有子/訳 (岩波書店)

人間の生活にあこがれる、しっかり者のこねこと、おとぼけ者のこいぬ。  
ある日、家の掃除をしているうちに、いつのまにか自分たちの体の毛をブラシがわりにしてゴシゴシ！あげくの果てには、せんとくもの干しにぶら下がって…。  
いぬとねこが大好きで、画家でもある作者のチャペックが描く、挿絵がかわいい物語。



「しらべるちがいのずかん」  
おかベ たかし/文 やまで たかし/写真  
(東京書籍)

ゆで卵と生卵を割らずに見分けるには？塩と砂糖の味以外のちがいを知っていますか？  
この本は、生き物や食べ物の意外なちがいを見くらべて、目で見て学ぶ雑学図鑑。家族や友達と一緒に、ワイワイ楽しもう！